

委員会だより

総務委員会報告

委員長 松原 功

総務委員会は、会の運営をスムーズに行うために広く皆さんの意見をお聞きし、会の運営に役立てて行く役割があります。

今年度は以下の事業を実施しました。

1. 理事会（役員会）報告の配信

毎月1回、第3週の金曜日の夕方6時から開催される定例理事会（役員会）の議事内容を要約して、メール・FAX・郵送で各会員に配信しています。

2. 会員名簿（会員情報調書）の発行

会員の皆さんから情報の提供をいただき、会員同士の連携を取りながら、この優秀な技術を持つ技術集団の特性を生かし、地域の樹木保全の活動や、当NPO法人の受託事業の拡大に広く活用できるように、会員名簿（会員情報調書）を作成し、平成22年1月、各会員に配布しました。

3 樹木医の診療報酬の検討

NPO会員が、NPO法人樹の生命を守る会の名を冠して行う樹木診断の報酬について、合計6回の会合と1回の現地適応化調査を経て、樹木及び森林を対象とした「NPO法人樹の生命を守る会樹木診断（初期診断）実施要領（案）」作成し、理事会の承認を得ました。実施は平成22年度からです。

なお、総務委員会のメンバーは下記のとおりです。

小池会員（君津市）

高橋（芳）会員（市川市）

中井会員（市川市）

松原会員（山武市）

企画・事業委員会

委員長 有田和實

平成21年度委員会活動は、技術委員会と共同で行った研修事業を中心に行った。

1. 研修事業

秋季研修旅行

12月6日（日）～12月7日（月）

群馬・栃木県の巨樹古木やフラワーセンターの視察等を中心に研修を行った。研修内容は群馬県支部の協力を得て、巨樹古木の保護木育成と樹勢回復対策や、フラワーセンターの植物育成や、園の運営等である。参加者は19名。

樹木診断研修会（第一回）8月23日（日）

習志野市東習志野コミュニティーセンターで樹木診断の座学をした後、東習志野こども園で診断実習を行った。参加者17名。

保存樹診断実習 10月9日（金）

成田市JR成田駅前再開発に伴うスタグイ古木の樹勢診断実習を行い、樹勢回復・移植方策の検討等を行った。参加会員は5名。

緑地保存樹（クロマツ）病虫害防除実習
2月13日（土）

習志野市実花緑地（東習志野8丁目）のクロマツ278本の簡易樹勢調査で、松枯れが激しいことから引き続き市から病害虫防除業務委託を受け、それに伴い実習を行った。参加者16名。

2. 受託事業

今年度は、会員の努力により12件の託事業を行った。

浦安市 市道の街路樹木点検業務
（東野側）

市川市（石勝エクステリア）	小塚山仮移植樹木樹勢調査
習志野市	市道のサクラ等樹木診断業務
薬師寺	大マキ樹勢調査業務
成田市	成田駅前保存樹樹勢調査
本埜村	本埜村第一小学校サクラ樹勢回復業務委託
浦安市	市道の街路樹木調査業務
習志野市	公園樹木樹勢回復治療業務委託
習志野市	実花緑地マツ病害虫防除業務委託
浦安市	豊受神社イチョウ樹勢調査
香取市	府馬の大クス樹勢回復作業
習志野市	クロマツ病害虫駆除工事

3. 22年度企画・事業委員会

平成 22 年 3 月 20 日（土）に計画案を策定した。また、事務局、技術委員会等とも連携をとり、総会運営や技術研修・受託事業について協議した。

技術委員会報告

委員長 大木一男

技術委員会は、会員の皆様の技術の向上や樹木医全体のために少しでも有益な情報を発信できるように活動しなければならない。今年度、委員会独自の活動はできなかった。企画・事業委員会との共催という形で技術研修会を行ったにとどまった。今後も共催での技術研修会は続ける。

21 年度の最後の研修会を府馬の大クスで 3 月 15 日に実施した。16 年に樹冠空洞を処置した部分をはがして発根状況を確認するこ

とや周辺の被圧樹木に対しての対応である。また樹木の各部の計測と土壌の調査も予定している。

現場での技術研修会は関係者の了解を得て行うが、当然委託業務の成果品は樹木医が施工作成したものとなる。現場での技術研修会を今後も続けていくので、多くの会員皆様の参加を望む。

広報委員会報告

委員長 伊東伴尾

1. 会報「樹の生命」第 8 号の編集・発行

本年度も、会員他多くの樹木医の皆様より事業活動、特集、寄稿、シリーズ物を中心に原稿をお寄せいただき、7 号同様のボリューム 52 頁の会報になりました。

特集は、本年度総会時の堀顧問講演「樹木の生理・構造と剪定理論」を、多くの図を交え分かりやすい内容の技術論文「枝と幹の構造と剪定の理論」として掲載しました。寄稿文は、恒例となっている有田樹木医海外緑化事情紹介と、新たに本年から始まった日本樹木医会千葉県支部のブロック活動を紹介しています。また、シリーズものや事業報告も多く掲載し、会誌はますます充実してきています。今後共、会員皆様の寄稿をお待ちしております。

2. ホームページ

平成 21 年度は、NPO 法人樹の生命を守る会のホームページに会報「樹の生命」No.7 の Web 版を掲載しました。次年度以降に発行する会報も閲覧できるようにしていく予定です。その他、活動予定などの更新を始め、総会や技術研修会、子ども樹木博士の様子などのニュースを計 10 件掲載しました。1 年間で約 2,500 のアクセスがありました。これ

から活動ニュースはもちろん巨樹・古木紹介や季節の便りなどのギャラリーコーナーも充実して行きたいと思いますので、会員の皆様より情報をお待ちしています。
樹の生命を守る会のホームページ
<http://homepage3.nifty.com/kinoinochi/>

事務局だより

事務局長 神尾健二

会員の皆さま、いかがお過ごしですか。平成 21 年度も皆さまの多大なるご協力のおかげで事業・研修が実施でき、誠にありがとうございました。

さて、樹木の病虫害を研究していると昆虫が必ず登場しますが、これが意外と（植物よりも）面白く、ついつい脱線して昆虫にはまることになります。

米国・ハワイでは「法医昆虫学」なるものが確立されており、死体につく虫から死亡日時を推定しているそうです。死体を外に出して 10 分後にはクロバエがやってきて産卵を始める。チーズバエは死後数日しないとやってこない。カツオブシムシは死体が乾燥してからやってくる。

20 年程前には誰も「法医昆虫学」を知らず、法廷で死亡推定日時を証言する前に証言する適格性を自己申告するのにひどく時間がかかり苦労したが、今ではその有用性が認められている。この間、警察・検察・司法関係者などに対し研修会を重ね、信頼を勝ち得たとのこと。

我々樹木医もまだまだ世間一般に広く認められているとはいえません。地道な普及活動や研修活動が唯一の道だと思っています。本年も皆さまのご協力をよろしく御願います。

訃報

八千代市在住の本会会員、神山勝様が、平成 22 年 2 月 5 日、樹木伐採中の事故で逝去されました。ここに、故人のご冥福をお祈りし、謹んでお知らせ申し上げます。

房総のヒメコマツ

樹木医 藤平量郎



房総のヒメコマツは、他県のヒメコマツが標高 500 ~ 1,700m の所に生育するのに、標高 120 ~ 300m と垂直分布下限の暖温帯の地域に唯一生存し、房総の植物種の多様性を象徴している樹木です。それが、温暖化とマツ材線虫病で絶滅の危険にさらされており、一緒に守っていきませんか。

豊かなちばの自然を守るエコ商品の開発・販売

@朝生林業株式会社

Aso. Forest. Co.

本社・工事部

東金店・資材部

〒290-0524

〒283-0804

市原市平蔵 322

東金市油井前田 54-1

0436-89-2014

0475-55-0100

0436-89-2800

0475-55-0109